

すべての学びが、
未来を生み出すためにある。

大学職員のグローバル化

立命館大学における職員の国際化



2012年11月26日
立命館大学国際部・塩田

Review 立命館の国際化への取り組み

1. 国際化の第一段階

- 1985年 国際センターの設置
- 1986年 海外言語研修セミナーの開始
留学生特別入学試験制度の開始
- 1987年 交換留学の開始
- 1988年 国際関係学部の設置
- 1991年 立命館・UBCジョイントプログラムの開始
- 1994年 アメリカン大学との共同学位プログラムの開始

Review 立命館の国際化への取り組み

2. 国際化の第二段階

2000年 立命館アジア太平洋大学(APU)の開学

「真の国際大学」をめざした挑戦

①入学時の日本語能力を求めない(英語で入学)

②奨学金を整備(40億円の寄付)

③国際通用性のある教育を重視

・成績評価方法の厳密化、英語による授業、シラバスの充実など

2001年 立命館大学 国際インスティテュートによる教育の開始

2007年 国際経済学科、国際経営学科開設

Review 立命館の国際化推進指標

プログラム	開始時		2011年度実績
国際交流協定	1986	4カ国、4大学	61カ国・地域、402大学・機関
異文化理解セミナー	1986	2カ国、3大学、91名	12カ国・地域、13大学、315名
交換留学(派遣)	1987	1カ国、2大学、4名	19カ国・地域、79大学、131名
交換留学(受入)	1988	3カ国、4大学、6名	21カ国・地域、79大学、167名
短期留学受け入れ	1989	16名	73名
立命館・UBCジョイントプログラム	1991	100名	97名
アメリカン大学 共同学位	1994	26名	25名(2011年度派遣5名)
外国人教員	1986	6名	120名
正規留学生受け入れ	1986	60名	1,146名

Review 立命館の国際化への取り組み

3. 新しいチャレンジ

R2020,APU2020 Creating a Future Beyond Borders

2011年 G30:国際関係学部GS専攻設置

2013年 G30:政策科学部CRPS専攻設置

2015年 大阪・茨木キャンパス開設

- ・ 経営学部、政策科学部移転
- ・ アジアのゲートウェイ

立命館の国際業務体制

立命館大学

国際部：前身は1985年設置の「国際センター」

国際企画課（18名）

交流協定・ネットワーク、G30、学部横断タイプの国際教学・日本語教育

海外留学課（16名）

全学タイプの海外学習プログラム（交換留学、ダブルディグリー、UBCJP、異文化理解セミナーなど）

留学生課（28名）

留学生入試、留学生寮・住居、奨学金、短期留学プログラム、在留資格、事件事故

国際協力事業課（19名）

政府レベル・民間レベル国際協力事業企画・実施、孔子学院、京都国連寄託図書館

立命館の国際業務体制

立命館アジア太平洋大学

国際部なし。各課の通常業務として国際業務を実施。

- 学生の45%が80カ国・地域からの留学生
しかも95%が英語基準での入学。
- 教員の40%が20数カ国からの外国籍。
- 大学運営は全て日英二言語。
大学評議会構成員の約40%が外国人役職者
→会議資料、掲示物、学生配布物、公的書類・・・全て日英で作成

大学の国際化の方向感

1. G30政策等で国際化は可能か？

- 英語コースの開講、日本語教育、寮の整備、日本での就職支援・・・
→留学生30万人受け入れ
- SS、SV支援、キャンパスアジア・・・

2. 中央教育審議会大学教育部会審議のまとめ(2011)

「世界的にも学士課程教育の質の保証が課題になっている中で、我が国の学士課程教育における基本的な学習時間の確保は、国際的な信頼の源泉として不可欠である」

大学の国際化の方向感

3. 顕著になる国際化外圧

1. 大学ランキングへの対応
インド教育法の500位基準
モンゴル等、政府派遣留学生の奨学金採用に活用
UK留学生の92%が留学先選択に参考・・・
2. 大学教育国際標準化の進展
ボローニャプロセス、エラスムス・ムンドゥス・・・→ECTS
AACSB,、EQUIS
3. CEFR対応 Common European Framework of Reference for Languages
4. AHELO
5. 留学生獲得の世界的競争

立命館の国際化見通しと職員業務

立命館大学

教学の国際化は課程単位に

- 日本人学生の送り出し数、史上最多に(1,787人)。
　　<内訳> 全学プログラム派遣枠=1,126人
　　　　　 学部・研究科プログラム派遣枠=1,034人

- 多様な受け入れ・交流プログラム
 - ・ 文学部=キャンパスアジア
 - ・ 情報理工学部=ハノイ工科大学に共同学科設置
　　　　　　　大連理工大学と共同学部開設・・・など

立命館の国際化見通しと職員業務

大学の国際化

＝センター牽引型から部局イニシアチブ型に

- ・ 学士教育課程に織り込まれるべきものとしての国際化

cf. Embed internationalization into all our programs /
University of Leeds

- ・ 「国際部」はいつまで必要か

国際業務の現状

2011年度 職員共同研修チームのレポート

30歳代までの職員対象の調査

国際業務の経験状況

- 何らかの国際業務を経験した=60%

国際業務に支障のない英語力

- ある=30%

職員研修プログラムを提案

- 英語基礎講座
電話・窓口対応編
・・・など5つ

9月大学行政管理学会で発表。



グローバル人材としての職員の育成を

2012年度グローバル人材育成事業の職員育成計画

TOEIC 700をクリアする事務職員の割合(目標)

2012年度 76人(職員の6.9%)



2016年度 175人(職員の15.9%)

グローバル人材としての職員の育成を

職員グローバル化推進プログラムの策定と実施(目論見)

1. 言語能力育成プログラム

実践的言語研修、TOEICミニマム設定

2. 海外派遣プログラム

インターンシップ、INUシャドウイングなど

3. 国際会議・イベント参加

NAFSA、EAIEなどのワークショップ、ブリカン訪英研修等に全学から参加

4. 海外大学院・教育プログラム派遣(現行)

5. 海外勤務

海外事務所:カナダ、韓国、中国、台湾、ベトナム、インド、タイ、ロンドン
APU勤務

これからの大学職員

○国際部業務の一般化プロセスの担い手育成は急務

○職員・職員業務の国際通用性とは何か・・・

1. 英語で仕事ができる
2. 第三の言語が使える
3. 修士以上の学位を有する職員が一定数いる
4. 海外の高等教育の実情を把握し、
海外の大学をベンチマークする

これからの大学職員

職員・職員業務の国際性測定ルーブリック(私案、検討途上)

習得目標	不到達	基準に やや満たない	基準を満たす	基準を超える
英語能力	会話や文書の作成においては通訳や翻訳者が必要である。	会話や文書の作成において、ひと通り自分でこなすことができるが、通訳や翻訳者の力が必要な場合がある。	相手の意見を理解できるとともに、自分の意見を発言することができる。 目的に沿った文書を作成することができる。	高度な討議が行え、高度な討議の司会を行うことができる。 政策文書や契約書等を作成することができる。
異文化理解力	文化的背景を理解できず、行動が一元的な価値観に基づいている。	文化的背景を理解してはいるが、それらを踏まえた行動を選択することができない。	文化的背景を理解しながら、それらを踏まえて自身の行動を配慮、考慮することができる。	文化的背景を理解しながらそれらを踏まえた行動をとることができる。
高等教育情勢理解力	特定分野において国内の大学の状況を説明できるが、海外の大学については把握していない。	特定分野において特徴的・代表的な海外の大学があることを知っているが、詳細は説明できない。	特定分野において特徴的・代表的な海外の大学の事例を挙げて説明することができる。	特定分野において、特徴的・代表的な海外の大学の事例を比較・対象しながら説明することができる。

Thank you very much.

감사합니다.

謝謝.

Terima kasih.